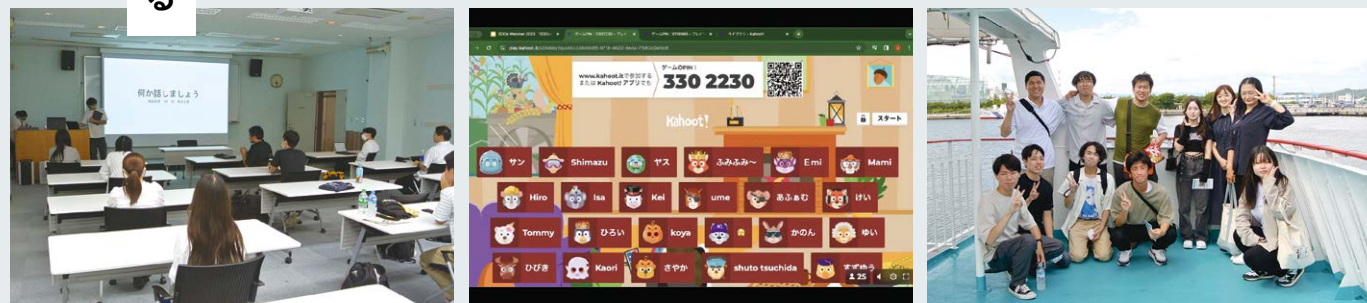


福島

アントレプレナーシップ教育

持続可能な社会の実現力を育てる

多様な課題解決に挑戦し、



独立行政法人国立高等専門学校機構

福島工業高等専門学校

福島県いわき市



地球的な視野から人、社会、環境に配慮し、 持続可能な社会の発展に貢献できる 未来のエンジニアを育成する

本校は、開校以来60年、5年一貫の専門教育を施すユニークな高等教育機関として、これまで約1万名の実践的技術者を社会に輩出してきました。現在も、社会の急速な変化に対応しつつ、創造性のある実践的技術者の育成に向け様々な取り組みを行っています。令和元年度からは、「持続可能な社会発展を目指し、グローバルに活躍する次世代技術者を育成する」をスローガンとしています。「持続可能な社会」、「グローバル」、「ローカル」、「次世代技術者」という4つの視点を持って、ESDにも取り組んでいます。

■組織・団体に取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について

上: 視察研修:企業見学の様子

下左: 視察研修時グループミーティングの様子

下中: オンライン講義:ディスカッションの様子

下右: 視察研修:地域文化の学び(小名浜港湾)

〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30

電話 0246-46-0705

FAX 0246-46-0713

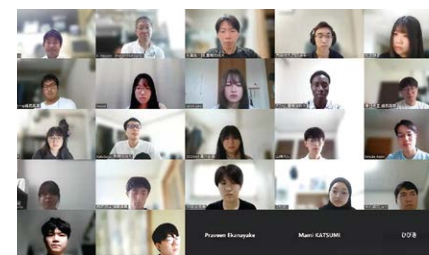
E-mail soumu@fukushima-nct.ac.jp

URL <http://www.fukushima-nct.ac.jp/>



活動紹介

SDGs Webinar 2023



オンライン講義:参加者集合写真



最終プレゼン発表の様子

プロジェクト概要

福島高専が主催し、長岡技術科学大学・豊橋技術科学大学との共催で実施しているプログラムです。SDGs Webinarは、SDGs17の理解を深めるとともに、アントレプレナーシップ(起業家精神)教育も取り入れています。企業見学を含む視察研修と座学を通じて、日本文化や歴史、環境への見聞を広め、SDGs17に繋がる具体的なイメージの発想力やグローバルリーダーに必要な集団でのコミュニケーション能力の向上を目指します。さらに、米国シリコンバレーの起業家達や大学教授などによる講演によりマインドセットの醸成を行い、グループワークによるSDGs17を取り入れたビジネスモデルプランの作成に取り組みます。ビジネスモデルプランの発表では、起業家を含む審査員に評価されます。

ESD実践のポイント

高専生と大学生と一緒にプログラムへ参加し、所属校の枠を超えたコミュニケーションを通じて、個々の視野を広げ、互いに高め合うことができます。また、一連のワークショップを通して、SDGs達成に向けた条件やマインド作り、世界の取組事例、アイデアの見つけ方やブラッシュアップの仕方等について学びます。SDGs Webinar 2023では、米国シリコンバレーで起業した日本人講師達の講演、日本国内で起業した講師からの海外進出についての講演を企画し、グローバルにSDGsやアントレプレナーシップについて考える機会となりました。高専生の実践力を活かし、困難な状況に置かれても、学生自身が「自分で創っていこう!」と、多様な課題解決に挑戦する意識を持つ技術者の育成を目指しています。

担当者からのメッセージ

2023年度は本校学生16名、長岡、豊橋技術科学大学生8名の参加者により実施しました。計6回にわたり行ったワークショップではシリコンバレー在住の起業経験者や両技科大から講師を招き、全ての講義はインタラクティブな形式で実施され、参加学生が積極的に質問する姿が印象に残っています。最終プレゼンテーションでは講師の方々から厳しい指摘を受ける場面も見られましたが、プレゼン資料については高い評価を受け、参加学生の自信につながったのではないかと思います。



国際化・SDGs推進センター長
梅澤 洋史さん

福島

(地球市民)になり役割を担おう!!

共に進めるためにグローバル・シチズン

被災地・ふくしまの復興と再生を



福島県郡山市



NPO法人 うつくしまNPOネットワーク

「ふくしま」をめちゃくちゃにした東日本大震災と 東京電力福島第一原子力発電所の事故(以下、3.11) に抗う、インターメディアリー(中間支援組織)

3.11の被害は甚大でした。そして、14年たった今もまだ「ing」です。が、一方で、東北6県はもとより全国から支援・応援をいただき、「助け合い」「学び合い」しました。

インターメディアリー(中間支援組織)の活動は、まさに、ESDで目指すこと(6つの視点:①多様性、②相互性、③有

限性、④公平性、⑤連携性、⑥責任制)に重なります。被災地・ふくしまの復興と再生のためには、市民・NPO、企業、行政などが力を合わせる必要があります。多様で多彩な人の輪が大切です。

■組織・団体に取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について
上: SDGs出前講座(年間24回開催)(ふくしまSDGsネットワーク(FSN)と連携)
下左: 総合防災イベント「そなえる・ふくしま2024」~いのちを守るマイ避難~
(開催日:11月2日)へ出展(こおりやま災害助け合いネットワークからの協力)
下中: フードバンク/フードドライブ事業(福島県フードバンク連絡協議会(FFPC)と連携)
下右: 水素と燃料電池の仕組みが学べるFCラジコンカー教室(みんなの市民活動交流フェスタ)

〒963-8835 福島県郡山市小原田2-19-19
電話 024-953-6092
FAX 024-953-6093
E-mail uketsuke@utsukushima-npo.jp
URL http://www.utsukushima-npo.jp/



活動紹介

グローバル・シチズン (Global Citizen: 地球市民)目指し、 学び合いを 深めていこう!!



こおりやまESD推進アライアンス(仮称)設立準備
(こおりやま広域圏地球温暖化防止活動推進センターの事業)



多文化共生社会に関する専門相談会(毎月開催)
(郡山市市民活動サポートセンターの協力)

プロジェクト概要

グローバル・シチズンは、グローバル人材とは違います。グローバル人材は、ビジネスや企業活動の文脈で使われます。国際社会の中で、語学力や国際的な経験を生かして営業活動をバリバリこなすビジネススキルに長けた人材です。もちろん大切です。しかし、被災地・ふくしまの復興と再生を担い、SDGs/ESDを実践していくためには不十分です。地球市民は、地球(the Earth)が惑星(planet)であることを自覚し、「我ら共有の未来(Our Common Future)」という考え方を大切にします。地球にはさまざまな問題(戦争・紛争、パンデミック、経済格差・貧困、人種差別、環境破壊、倫理的ジレンマなど)が山積みです。この問題を自分事とし、解決すべき課題と捉え、そのような価値観を持ち行動する人を指します。世代、性別、国籍、人種は無関係です。

ESD実践のポイント

「助け合い」「学び合う」ためには、相談し意見を言い合える仲間が必要です。様々な講座と実践、ネットワークづくりを大切にしています。
(1)多文化共生社会を目指し専門相談会を開催しています。(年12回)(2)福島県フードバンク連絡協議会(FFPC)の活動を通して、食の大切さを学び合います。(3)ふくしまSDGsネットワーク(FSN)と連携し小中高や市民団体、企業向けにSDGs出前講座を開催しています。(年24回)(4)こおりやま災害助け合いネットワークの協力を得て、総合防災イベント「そなえる・ふくしま2024」に出展しました。(5)被災地・ふくしまの未来を共に考えるために、みんなの市民活動交流フェスタ2024に出展し、水素で動くFCラジコンカー教室を開催しました。(6)こおりやまESD推進アライアンス(仮称)の設立に向け、地域の人たちとの話し合いを続けています。

担当者からのメッセージ

地域の人たちと話し合っている時に、D問題が発生しました。おばあちゃんが、「やはりあんたたちも、ブルドーザーを持ってくるのかね」といいます。苦笑しつつ、「Development」という言葉を、「開発」ではなく「成長」という言葉にしてみました。現下の戦争、資源争奪、食糧不足、マネーゲーム、SNS騒ぎ、タレントの不幸事などを目にしますと、地域ESD活動推進拠点の役職員の、地球市民(Global Citizen)としての率先が試されていると感じます。



事務局長
鈴木 和隆さん

東北ESD／SDGs フォーラム

開催記録

2018年2月9日(金)
東北ESDフォーラム2018
東北をESDの輪でつなぐ

会場 TKPガーデンシティ勾当台 ホール2(宮城県仙台市)
参加者数 110名



2020年2月9日(日)
東北ESD/SDGsフォーラムin仙台
～東北の未来をつくるSDGs～

会場 仙台国際センター 会議棟3階中会議室「白樺」(宮城県仙台市)
参加者数 147名



2016年
(H28年)

東北地方ESD活動支援センター
設置準備委員会

2017年
(H29年)

2017年7月3日(月)
東北地方ESD活動支援センター **開設**

2018年12月21日(金)
東北ESDフォーラムin岩手
～学びあい、広げよう(Education)、
持続可能な世界へ向かって(Sustainable Development)～

会場 アイーナ いわて県民情報交流センター(岩手県盛岡市)
参加者数 151名



2018年
(H30年)

2019年
(H31年)

2021年1月31日(日)
東北ESD/SDGsフォーラム2020
みちのくSDGs～東北からつなごうSDGsの輪～

会場 オンライン会場:YouTube配信
配信会場:TKPガーデンシティ仙台(宮城県仙台市)
オンライン最高瞬間視聴数 104名



2020年
(R2年)

新型コロナウイルス感染症の世界的流行



新型コロナウイルス感染症の世界的流行

2023年1月21日(土)
東北ESD/SDGsフォーラム2022
～スポーツ・音楽・伝統工芸からSDGsを紐とく～

会場 TKPガーデンシティ仙台 ホール30A(宮城県仙台市)
オンライン会場:YouTube配信
リアルタイム最高瞬間視聴数 48名
アーカイブ配信視聴回数 89回



2021年
(R3年)

2021年10月17日(日)
東北ESD/SDGsフォーラム2021
みちのくSDGs in あomorい
～人づくりから広がるSDGsの輪～

会場 ウェディングプラザアラスカ(青森県青森市)
オンライン会場:YouTube配信
会場参加者 80名 オンライン最高瞬間視聴数 89名



2022年
(R4年)

2023年12月16日(土)
東北ESD/SDGsフォーラム2023
～SDGs達成に向けた東北の今と未来～

会場 仙台国際センター 会議棟3階中会議室「白樺」
(宮城県仙台市) オンライン会場:YouTube配信
会場参加者 41名 リアルタイム最高瞬間視聴数 17名
アーカイブ配信視聴回数 47回



2023年
(R5年)

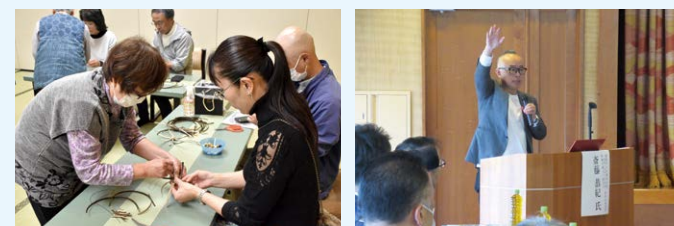
Report!

東北ESD/SDGsフォーラム2024
～ホールエリアとしてのESDの推進を目指して～

福島只見

日時 2024年11月14日(木)～15日(金)
会場 季の郷 湯ら里 ゆきつばき
参加者 会場参加 90名
オンライン参加 15名(最高瞬間視聴数)

福島県只見町では、ユネスコエコパークや伝統文化等の地域資源を生かし、地域全体(ホールエリア)でESD・SDGs活動に取り組んでいます。只見町の事例を広く発信することを目的に、フォーラムを開催しました。気象予報士の斎藤恭紀氏による気候変動に関する講演では、福島県や只見町の今後の気象の見通しを交えてお話いただきました。また、行政・産業・伝統文化の各分野からの事例紹介や、伝承産品(手毬、つる細工、ぜんまい綿毛)を作成する体験活動を行い、「地域資源の活かし方が勉強になった」等の感想が寄せられました。



ESD 地域 コーディネーター

東北地方ESD活動支援センターでは2022年度(令和4年度)から「ESD地域コーディネーター」という新たな仕組みを設け、地域のESD活動の活性化を目指して事業に取り組んできました。

現在では青森県・宮城県・福島県にコーディネーターが誕生し、ESDに関する相談対応や活動支援に取り組んでいます。学校と地域をつなぐ調整や授業づくりの支援、関係者に向けた働きかけを通して、ESD活動の実践を応援しています。

今後は各県でコーディネーターが活躍することを目指して、さらにESD活動の輪を広げていきたいと考えています。



コーディネーター同士の活動共有会の様子



貝森 毅彦さん

ESD実践校の拡大に向けて

これまで青森市内外でESD実践校を1校でも増やすことを念頭に活動し、私に関わる学校は年々増え、その中の2校は地域ESD活動推進拠点として、全校で取り組みが進んでいます。私が授業を行うことが多いのですが、地域の方々に講師にした授業も行われています。事前に打ち合わせを密に行い、授業への思いを少しでも担任や講師と共有しながら啓発活動を展開しています。

SDGsが実現する未来を目指して

ESDとは持続可能な社会を創る手立てを行動しながら知る学びだと捉えています。気候変動に関わる授業では、影響は身近な脅威となっていることや解決への取り組みが限定的になるなど、内容がどうしても閉塞的になりがちですが、世界に目を向け、地域に根ざし大胆な発想でSDGsが実現する自分達の未来を創って欲しいと願い子ども達と向き合っています。



青森市内のESD実践校での授業



内藤 恵子さん

地域に根ざした活動展開

コミュニティスクール(以下、「CS」とする)の仙台市立小中学校には学校支援地域本部が設置され、学校支援を通して地域住民も学ぶ、好循環が生まれています。CSには、社会教育を担う市民センター、地域生活の基盤である町内会も参加、これらの組織を活かし、小中学生、地域住民が学ぶ「市民のためのESD講座」を実施しました。2024年度の学び合いプロジェクトでは、市民センター職員への「講座企画のための講座」を実施しました。

コーディネーターとしての役割

SDGsには、あらゆる世代が取り組むべきだと考えます。若い世代への教育は最優先ではありますが、環境の汚染・破壊に図らずも加担してきた世代こそが率先垂範すべきです。多世代・多様な立場の方々が、交流を通して共に学ぶ「仕掛」から生まれる化学反応に期待し、コーディネーターとして、ネットワークを広げ、社会の動向にアンテナを立てていたいと思います。



コミュニティスクールとの連携活動



齋藤 修一さん

ESDの意義を広く伝えたい

世界的な教育運動であるESD(持続可能な地域を担う人材育成教育)の意義を県内各方面にどう普及啓発をするかという一点に絞って活動をしてきました。学校は勿論ですが、行政、企業、地域、議会、NPO等を直接訪問し、それぞれの職種でESDに取り組む価値を伝えて来ましたが、現実の社会の変容はなかなか難しい状況です。

豊かな社会の実現に向けた普及活動

地域や地球規模の課題や次世代に引き継ぐ未来を考えた時、この普及啓発活動を諦める訳にはいきません。そのために、ESDの意義をSDGsとセットでとらえられる社会を創造していきたいと思います。また、ESDの取り組みの裾野の拡大拡充を目指すとともに、個人の生き方にも反映され豊かな社会が実現できるよう尽力していきたいと思っています。



郡山市立学校長会議での講演